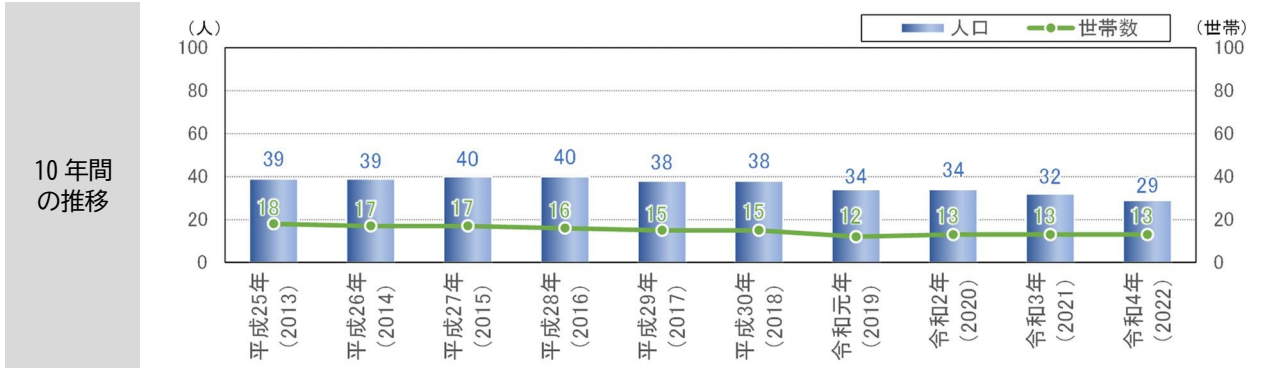
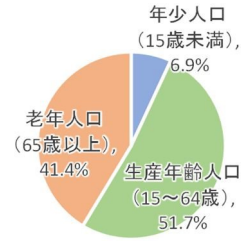


	世帯数	人 口	年齢別人口
現 在	13 世帯	29 人	15 歳未満 (年少人口) 2 人
			15～64 歳 (生産年齢人口) 15 人
			65 歳以上 (老年人口) 12 人
約 50 年前	11 世帯	58 人	



歴史等

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。日光寺山東北の高峰山城の城主伊豆祐国は赤松氏の幕下でしたが、羽柴秀吉の播磨攻略で落城し、その後、仁色(姫路市)に帰農し、文禄2年(1593)に先祖のお告げによりその次男・三男を高峰山麓の亀坪谷の開発に着手させたと伝わります。正保年間(1644～1648)の『正保郷帳』には村名は見られず、元禄年間(1688～1704)の『元禄郷帳』に「西大貫村枝郷、亀坪新村」とあります。姫路藩領で、大庄屋組は太尾組に属しました。明治9年(1876)に東田原村の一部となりました。

なお、現在、亀坪からは屋台が出されていませんが、大正9年(1920)の鈴の森神社(辻川区)の上棟式には亀坪の屋台が宮入した記録が残っており、戦時中の金属供出によって失われたと伝わっています。



大歳神社



道中図 (大歳神社)



カシの木 (大歳神社)



地藏堂



亀坪中池



石灰石採掘場跡

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	1	地藏菩薩立像(地藏堂前)	元文6年(1741)	地藏菩薩の石仏。正面には「日光寺」の文字と像容、造立年月が記されている。				●	●	
	2	六地藏(亀坪墓地)	嘉永2年(1849)	六地藏の石仏。うち1基の正面には造立年月が記されている。				●		
	3	石鳥居(大歳神社)	文政13年(1830)	石鳥居。右柱正面には「奉納 当社氏子中」、左柱正面には造立(再建)年月日、背面には石工が記されている。				●		
	4	狛犬(大歳神社)	安政4年(1857)	石造の狛犬。				●		
	5	玉垣建設記念碑(大歳神社)	大正3年(1914)	玉垣建設を記念して建てられた石碑。				●		
	6	道標(地藏堂前)	嘉永5年(1852)	道標。正面には「日光寺」と記されている。				●	●	
	7	道標(地藏堂西)	昭和16年(1941)	道標。正面には「日光寺道」、左には「左山道」と記されている。				●	●	
	8	道標(亀坪路傍)	不明	道標。加治谷区内に位置する。正面には地藏坐像の像容とともに「みぎほう志やう かめつぼ ひだり日かふ寺」と記されている。				●	●	
	9	石標(地藏堂前・日光寺登山口)	不明	石標。正面に梵字と「日光寺」、背面に「願主 当村惣中」と記されている。				●		
	10	雨水受(大歳神社)	昭和26・27年(1951・1952)	左右一対の雨水受。				●		
	11	墓碑(地藏堂前)	万延元年(1860)	寺子屋師匠墓碑と伝わる。正面には梵字と「観口浄口居士」、右には造立年月日、左には「俗称 河嶋久右衛門」と記されている。	●			●		
美術工芸品 絵画	12	中国故事題材図(大歳神社)	天保14年(1843)	奉納者は不明。102×66 cm。	●			●		
	13	道中図(大歳神社)	文化7年(1810)	奉納者は不明。83×106 cm。	●			●		
	14	常盤御前図(大歳神社)	天保14年(1843)	奉納者は不明。102×69.5 cm。	●			●		
	15	仁田四郎猪狩図(大歳神社)	寛政2年(1790)	奉納者は不明。88×108.5 cm。	●			●		
	16	羽子板(大歳神社)	不明	奉納者は不明。1枚。	●			●		
	17	中国故事題材図(大歳神社)	文政6年(1823)	奉納者は不明。82.5×99.5 cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品 絵画	18	武者絵図（大歳神社）	嘉永元年（1823）	奉納者は不明。85×107.5 cm。	●			●		
	19	武者絵図（大歳神社）	文政9年（1826）	奉納者は「当郵氏子中」とある。87×107 cm。	●			●		
	20	猿と蝶図（地藏堂）	不明	奉納年月日は「□永三年戌七月□日」と一部読み取れない。奉納者は不明。12×16.5 cm。	●			●		
	21	地藏菩薩写経額（二面）（地藏堂）	天保13年（1842）	奉納者は「願主金兵衛」とある。2面で1対であり、いずれも41×100 cm。	●			●		
無形の民俗文化財 年中行事・民俗芸能	22	斎灯	—	2月3日に大歳神社で行われる。				●		
	23	夏まつり	—	7月9日に大歳神社で行われる。				●		
	24	地藏盆	—	8月23日に地藏堂で行われる。				●		
遺跡 その他の遺跡	25	石灰石採掘場跡	江戸時代後期～昭和	江戸時代後期～昭和まで石灰石が採掘されていた。灰山（はいやま）と呼ばれる。		●	●			
	26	耐火レンガ採掘場跡	昭和30～40年代	昭和30～40年代に数年間、耐火煉瓦の原料として採掘されていた。		●	●			
	27	茶碗石採掘場跡	昭和30～40年代	昭和30～40年代に数年間採掘されていた。現在は砂防ダムが建設されている。		●	●			
動物・植物・地質鉱物 植物	28	大歳神社のカシA	—	大歳神社境内に位置する。 【町指定保存樹】		●				
	29	大歳神社のカシB	—	大歳神社境内に位置する。 【町指定保存樹】		●				
その他 信仰の場	30	大歳神社	—	大年神を祀る亀坪区の氏神。一説に文禄年間（1592～1596）に高峰山城主（藤原鎌足の子孫）が先祖を相殿に祀り云々とある。				●		
	31	地藏堂	—	棧瓦葺・宝形造で、外壁は板張り。日光寺へと続く登山道の入口に位置することから、堂前には複数の道標・地藏等の石造物が置かれている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・ 自立（律）のまちづくり交付金事業を活用して、年中行事継承交流事業（花祭り、苗上り祭り、おはぎづくり、夏祭り祭灯、地藏盆、トンド、節分祭灯）、3世代交流事業（もちむぎ素麺流し、コスモス祭り）、道路環境美化事業（道路側溝清掃、道路端の草刈り、山裾刈り）などを実施してきました。



年中行事継承事業（みんなでおはぎづくり）



3世代交流事業（もちむぎ素麺流し）